



プロジェクト・研究成果の概要(2/2)

道路構造物維持管理用データプラットフォームの仕様の検討：MMSの活用法

国土交通省 北陸地方整備局 点群データを用いた3次元道路台帳用図検討業務



なお図は、3次元道路台帳との連携を想定した本研究の完成イメージである。地下埋設物を読み込んだ市街地部のMMSデータおよび航空レーザ測量データと合体させたMMSデータによるデジタル道路台帳の作成例である。これらが国総研データベースに保管されていくプロジェクトが近畿地方整備局でも進行しており、本研究成果を活用することで、インフラ構造物の経時変化を、MMSを使って把握することが可能になる。

(2) 設計～施工工程間でのデータ受け渡し研修プログラムの開発

参加メンバーによる「i-Constructionにおける品質確保検討委員会」を立ち上げ、設計・施工間のデータ受け渡しを中心にCランク建設会社へのi-Constructionの普及に関わる課題と解決策を議論。その結果を近畿技術事務所主催のBIM/CIM研修プログラムに反映させた第1回目の研修を実施。本プロジェクトは昨年度で修了したが、2023年度以降も近畿技術事務所にて引き続き研修プログラムの拡充を図るので、その支援活動を継続させる。

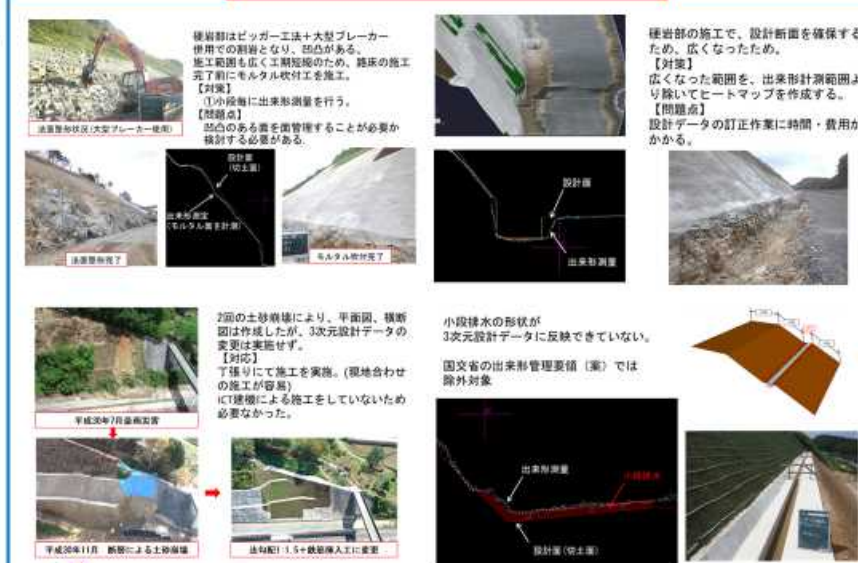
研修テキスト：切土工に関する内容

「i-Constructionにおける品質確保検討委員会」にて議論された内容

ICT土工（切土）の課題

- ・土側溝は掘削と同時にICT施工データに取り込めるのか不明：排水掘削(作業土工、小規模土工)等、施工現場での掘削は多岐にわたり、それらをどのフェーズで作成するのが分からない。
- ・ICT土工の対象は土砂であり、切土は軟岩・中硬岩が生じるケースが多くICT土工の対象としては難しい。
- ・設計と発注(極めて流動的)図面が同一となることは極めて限定的である。
- ・近年、施工を分割する傾向であり、設計断面のまま発注し、勾配が確保できない場合、下段で擁壁を設置する例もある。
- ・横断勾配変化区間では、断面の補足をする必要がある。

研修テキストに反映させた内容：切土工の実例の紹介



研修テキストに反映させた内容：実例を紹介することで参考にしよう